



# 南小だより

E-mail kogenminami@ac.city.myoko.niigata.jp

〈教育目標〉

進んで学ぶ子

思いやりのある子

最後までやりぬく子

〒949-2112 妙高市関川1592

TEL: 0255-86-2104

FAX: 0255-86-3212

## あいさつチャンピオン

校長 渡辺 伸一

「おはようございます。」

「校長先生 おはようございます。」

私が早いか、児童が早いか、はたまた同時か。互いに姿を確認し、間合いをみながら、声を出すタイミングをはかります。私は、雪の日も晴れの日も雨の日も1日の始まりは笑顔でと心掛けています。笑顔を返してくれる児童や、じっと見つめてくる児童、ハイタッチを求めてくる児童もいて、私にとっては楽しい時間です。

3学期の始業式、生活指導担当が全校児童に次の話をしました。

1月は寒い季節です。体も心も縮まりがちなので、大きな声であいさつし、1日を元気に前向きな気持ちで始められるようにしたいと考えました。明日から1月18日まで、あいさつ強調週間“あいさつチャンピオンになろう”をします。毎日、校長先生から数人を選んでいただき、委員会の担当児童が昼の放送で発表します。互いに明るくあいさつを交わし、1日を明るい気持ちで元気に始められるようにしましょう。



昼の放送で児童の名前を発表した後、職員室前に、その日のチャンピオンの名前を掲示しています。児童の中には、歩く足を止め、名前を確かめる姿が見られます。日を追うごとに児童の朝のあいさつが元気になってきます。

雪の朝は、4つ準備してあるブラシを使ってランドセルに積もった雪を払う姿が見られます。自分のランドセルの雪は自分では払えません。誰かに払ってもらわなければ校舎の中が雪だらけになってしまいます。児童同士で互いに雪を払い助け合う姿が見られ、見ている私まで優しい気持ちになります。自然と笑顔がこぼれます。「ありがとう。」



の声も聞こえてきます。寒い冬の心温まる姿、思いやりの心が育まれる時間です。

あいさつ強調週間の初日はたくさん雪が降る朝でした。先に登校した2人の児童が、玄関前でブラシを持って待ち構えていました。誰かに頼まれたわけでもないのに、登校してくる児童の後ろに回り雪を落としているのです。私は、その心を大切にしたいし、みんなに伝えたいと思い、生活指導担当に“やさしかったで賞”を推薦しまし



た。

実は、生活指導担当から“あいさつチャンピオン”の提案があった時、私の心の中に迷いと違和感がありました。毎日、児童全員と普通の朝のあいさつをしているのです。その中であいさつのよかったと思う児童を決めることはできるのか、公平に平等に選ぶことはできるのか、という不安です。でも、そんなことをいっても始まりません。“案ずるより産むが易し”と言う諺もあります。提案に賛成し始まったのです。

初日のことです。「校長先生、おはようございます。」といつもより明らかに大きな声で、はりきってあいさつをしてくる児童がいました。しかし、その日は別の児童を推薦しました。私は心の中で『明日も同じようなあいさつをしてくれたら推薦しよう。』と考えていました。でも、大きな声のあいさつは初日だけでした。次の日からはいつものあいさつに戻っていました。がんばって大きな声であいさつしたのに選ばれなくてがっかりしたに違いありません。そう思うと複雑な気持ちになりました。

あいさつについて、学校の中では大きな声であいさつするのに外ではできていない、と指摘する方がいます。それは私も感じる時があります。ある退職された校長先生の話です。

「子どもたちのあいさつがよくないと話される方がいますが、家族や地域の大人がきちんとあいさつしているのでしょうか。大人があいさつできていないのに、子どもたちができるはずがない。いくら学校で一生懸命伝えても身に付くはずがない。」

子どもを責める前に、まずは今できることを私たち大人から始めていきたいと思います。